

君がため 春の野に出でて 若菜摘む

我が衣手に 雪は降りつつ 光孝天皇



I went out to the spring fields
To pick green herbs for you.
All the while
Snow was falling on my sleeves.

「あなたのために、春の野に出かけて若菜を摘みました。その若菜を摘む袖には、雪が降りつづけておりました。」

白い雪の中、芽を出した小さな緑。それを摘む腕にも、雪がはらはらと降り積もる。寒くて美しい情景の中で、誰かを想う優しい気持ちに心が温まります。

この和歌は、光孝天皇がまだ即位する前、皇子の時に詠んだもので大切なひとの健康を祈り、春の野草に添えて贈った歌でした。

一年の無病息災を願う、七草。

その行事は平安時代にはすでにあり、清少納言の『枕草子』などにも登場します。

「若菜」とは、雪の中から早春に生えてくる山菜や薬草のことで、

この「若菜摘み」は宮中の重要な正月行事でした。

そして江戸時代には庶民にも広まり、現代の「七草粥」に近いものになります。

芹 薺 御形 繁縷 仏座 菘 蘿蔔

セリは日本原産の野菜です。実は、日本原産の野菜というのは意外に少なく、ウド、フキ、ミツバ、ワサビ、ヤマノイモ、そしてセリなど

他にも数えるほどしかありません。ほとんどの野菜は、海の外から来た植物です。

セリには独特な香りがありますが、平安時代はもちろん、もっとずっと以前の縄文時代にも日本に生えていて、私たちがお世話になってきた野菜なのですね。そんなことに想いを馳せながら、七草粥を味わってみると

遙かな昔に日本で暮らし始めた人々の、ささやかな食卓に繋がっているようです。

（古今和歌集 卷一 春哥上二一、小倉百人一首 一五番）

花物語 比田井宗玉

